

日本人における女性生殖要因と乳がん罹患の関連

女性生殖要因と乳がん罹患の関連については多くの先行研究がありますが、先行研究間で結果が異なる女性生殖要因があります。

本研究では、日本の9個の大規模コホート研究（多目的コホート研究（JPHC-I、JPHC-II）、JACC研究、宮城県コホート研究、三府県宮城コホート研究、三府県愛知コホート研究、高山研究、大崎国保コホート研究、放影研寿命調査）から約18万人を統合したプール解析を行い、日本人における女性生殖要因と乳がん罹患の関連を解析しました。各コホート研究において、6つの女性生殖要因（①初経年齢、②初産年齢、③出産数、④閉経年齢、⑤女性ホルモン製剤使用歴、⑥授乳歴）と乳がん罹患の関連を、それぞれコックス比例ハザードモデルを用いて解析しました。解析は、閉経前女性、閉経後女性に層別化して行いました。その後、9個のコホート研究の解析結果を統合しました。

解析対象者は閉経前女性61,113名、閉経後女性126,886名の計187,999名でした。①初経年齢については、閉経前女性・閉経後女性いずれにおいても乳がん罹患との有意な関連は認められませんでした。②初産年齢（図1、次頁）については、閉経前女性では初産年齢36歳以上の群、閉経後女性では初産年齢26～30歳および31～35歳の群で、初産年齢21～25歳の群と比較して乳がん罹患リスクが有意に高くなっていましたが、初産年齢の増加に伴う乳がん罹患リスクの有意な増加傾向は認められませんでした。③出産数（図2、次頁）については、閉経前女性では出産数2人以上の群で、未経産の群と比較して乳がん罹患リスクが有意に低くなっていましたが、出産数の増加に伴う乳がん罹患リスクの有意な減少傾向は認められませんでした（傾向性P値=0.30）。一方、閉経後女性では、出産数の増加に伴って乳がん罹患リスクが有意に減少していましたが（傾向性P値=0.03）。④閉経年齢（図3、次頁）については、閉経年齢50歳以上の群では閉経年齢44歳以下の群と比較して乳がん罹患リスクが有意に高くなっていましたが、閉経年齢の増加に伴う乳がん罹患リスクの有意な増加傾向は認められませんでした（傾向性P値=0.37）。⑤女性ホルモン製剤使用歴については、閉経前女性においては、女性ホルモン製剤使用歴がある群で、使用歴がない群と比較して乳がん罹患リスクが1.5倍と有意に高くなっていました。一方、閉経後女性では女性ホルモン製剤使用歴の有無と乳がん罹患の間に有意な関連は認められませんでした。⑥授乳歴については、閉経前女性・閉経後女性いずれにおいても乳がん罹患との有意な関連は認められませんでした。

本研究から、女性ホルモン製剤の使用により閉経前日本人女性において乳がん罹患リスクが有意に高くなることや、出産数が増加するにつれて閉経後日本人女性において乳がんリスクが有意に減少することが明らかになりました。本研究では女性ホルモン製剤の種類の詳細に関する情報を得ることができなかつたため、具体的にどのような種類の女性ホルモン製剤の使用歴が乳がん罹患リスクと関連しているのかについて、更なる研究が必要です。

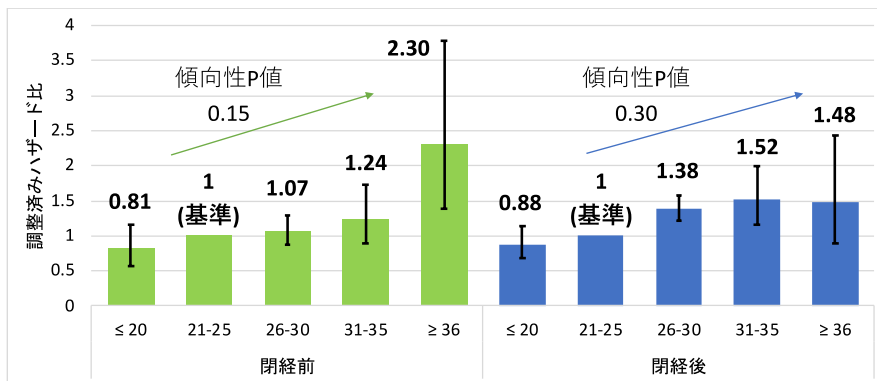


図 1. 初産年齢と乳がん罹患の関連

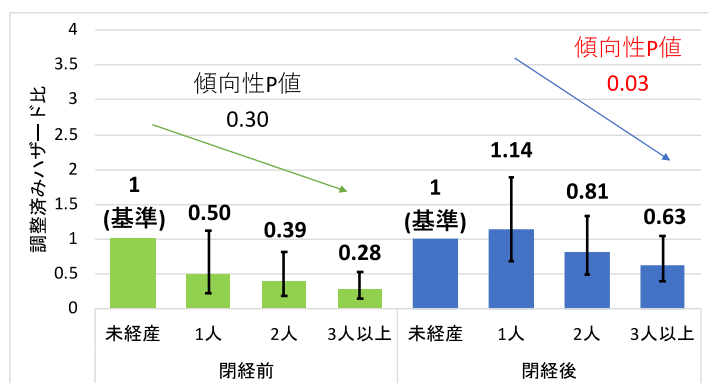


図 2. 出産数と乳がん罹患の関連

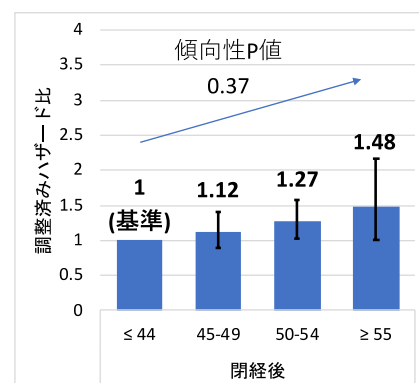


図 3. 閉経年齢と乳がん罹患の関連

<その他の筆頭著者論文 概要>

○ Mortality of Japanese Olympic athletes: 1952-2017 cohort study

戦後の日本の歴代五輪選手の生命予後情報を公開情報検索システムから収集し、日本人五輪選手が日本一般人口と比較して長生きであるかを解析しました。

○ 我が国における人口増減の決定要因

e-Statにて公開されている政府統計を用いて、人口増減と関連する要因を解析しました。

○ Profile of Patients with Novel Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) in Osaka Prefecture, Japan: A Population-Based Descriptive Study

○ Characteristics of patients with novel coronavirus disease (COVID-19) during the first surge versus the second surge of infections in Osaka Prefecture, Japan

大阪府のホームページで公開されている COVID-19 患者情報を記述疫学的に分析しました。

○ The effect of a cancer history on patients with acute myocardial infarction after percutaneous coronary intervention: insights from the OACIS registry

急性心筋梗塞患者において、がんの既往歴が予後に与える影響を解析しました。

○ Mortality of Japanese Olympic athletes in 1964 Tokyo Olympic Games

1964年東京五輪に出場した日本人選手において、出場時のBMIや喫煙歴、握力が生命予後に与える影響を解析しました。